

－泥岩地盤で発生した地すべりについて－

①滑動範囲：幅 50m、斜面長 5～10m、層厚 5m 程度（丘陵斜面の中腹部で発生）

・地すべり中央の中腹斜面で局部崩壊があり、既設擁壁が破損するとともに、一部土砂が家屋に到達。

②すべり面形：冠頭部キレツは概略直線状であり、板状すべりが想定される。

③地すべりの誘因

地すべり中央の崩壊地内で鉄砲水が見られたとのこと。古い地すべりの再滑動であり、冠頭部キレツを介した移動層への静水圧とともに、地すべり中央付近に集中した揚圧力がすべり面をつたって脈状に広がり、全体の滑動を助長した？

※粘土層からなるすべり面に、間隙水圧が面的に作用する可能性は低い？

④活動性

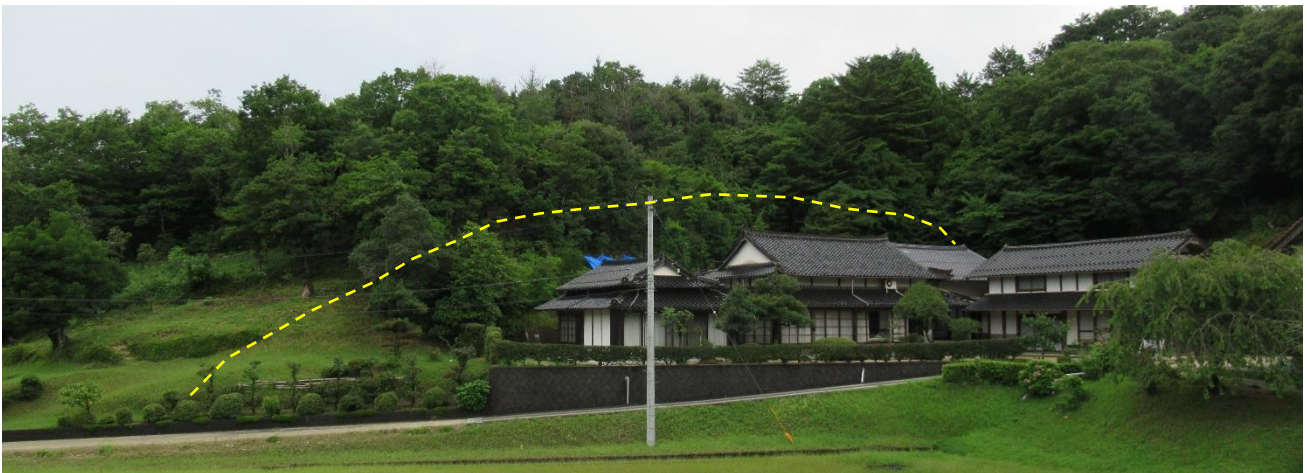
○昭和 45 年頃より当該斜面での崩壊があり、その都度土留壁による復旧がなされた（計 3 回程度）。

○写真②に示す右岸側斜面内の押し出し（編柵による土留実施）は、8 年前頃に実施

○既設擁壁の割れが発生した時点で行政に見てもらったが、「急な滑動の恐れはないので、何かあれば連絡してください」で済まされたとのこと

※このような事例は昔から続いており、地すべりに対する知識や、変状要因を突き止める熱意（／人命等に関わる災害を未然に防ぐ」といった使命感）がない限り、絶えることはない、

※当該現場でも、末端部崩壊土砂の除去が計画され、冠頭部キレツの存在は誰も確認していなかった。



① 遠景（段差地形に沿って冠頭部キレツを形成）



② 近景・・・右岸側に拡大するキレツ（円内）と末端押し出し地形（二点鎖線：編柵施工）



③ 既設擁壁（S45年頃施工）の変状
と宅地地盤の盛り上がり



④ 右岸側中央付近の孕み（写真②の円内）



⑤ 冠頭部キレツ（右岸側～中央方向）：中央付近で落差1m程度



⑥ 中央付近の崩壊（鉄砲水噴出箇所）

以 上